

脳梗塞急性期における 3T MR の有用性について

【背景と目的】当院は、2014 年の脳梗塞入院患者は 422 例（発症 3.5 時間以内 83 例）であった。t-PA 療法は 22 例。緊急血栓回収術は 12 例、緊急 CAS は 2 例に実施した。3T MR の入れ替えを昨年 12 月に行ったので、脳梗塞急性期の有用性について報告する。

【方法】使用した機種は、GE 製 Discovery MR750w 3.0T である。1. 虚血巣の診断：2mm スライスの DWI を実施、虚血巣診断と責任血管の想定を行う。2. 責任血管の診断：頭部と頸部 MRA を実施、高度狭窄ある場合 Silent MRA を、主幹動脈閉塞のある場合 CUBE T1 を追加。

【結果】1. DWI では虚血巣の立体的把握と責任血管の推定が可能であった。2. Silent MRA では、高度狭窄の形態が良好に確認出来た。CUBE T1 では、頸部頸動脈プラークの性状と立体的把握、血管内塞栓や椎骨動脈解離腔フラップの確認が可能であった。

あった。【結論】3T MR の入れ替えにより、脳梗塞の病態の詳細な把握（頸動脈プラーク・血管内塞栓の立体的把握など）が可能になり、手術適応判定や手術効果判定に対する有効性が強く示唆された。画像を供覧し最新の知見を報告する。